

招待講演

コンピュータ社会におけるアーカイブズ

—Metadata means better data—

「日本アーカイブズ学会(仮称)」設立準備委員会
北海道立文書館主任文書専門員 青山英幸

【要旨】

二一世紀冒頭の日本社会において、コンピュータによる技術革新とそれを加速させようとする「e-Japan戦略」にもとづく波により、アーカイブズ(Archives)は二重の意味においてそのあり方が根本的に変化させられつつある。第一の波は電子記録(Electronic Records)、第二の波は「デジタル・アーカイブ」である。言い方を替えると、第一の波は作成され、保存される記録が紙媒体から電子媒体に変化するということであり、第二の波は資源(Resources)の分配と利用がバーチャルな領域において供給者と受給者の間で双方向に行われるということである。

ここでは、これらと同様な波に対し欧米のアーカイブズ学(Archival Science)がどのように対処してきたか、また、今後の方向をどのようにしようとしているかを若干かいま見ることによって、我々が今後採るべき方向性についての糧としていただければ幸いである。

欧米のアーカイブズ学において、これらの波への対処方法が構築されるのは1990年代であるが、第二の波、資源の分配と利用方法の方が、第一の波、電子記録への対処より早く着手され成果が公表されている。

その成果は以下のとおりである。

第一の波は

The Australian Standards AS 4390: *Records Management*, 1996

International Council on Archives: Committee on Electronic Records: *Guide for Management Electronic Records from an Archival Perspective*, *Studies-Etudes* 22, 1997

ISO 15489-1: *Information and documentation—Records management—Part 1: General*, 2001

ISO /TR 15489-2: *Information and documentation—Records management—Part 2: Guideline*, 2001

第二の波は

International Council on Archives: Ad Hoc Commission on Descriptive Standards: *Statement of Principles Regarding Archival Description*, 1992

International Council on Archives: Ad Hoc Commission on Descriptive Standards: *General International Standard Archival Description: ISAD(G)*, 1994

International Council on Archives: Ad Hoc Commission on Descriptive Standards: *International Standard Archival Authority Record for Corporate Bodies, Persons and Families: ISAAR(CPF)*, 1996

これら両者には、もっとも重要な共通した方法論が採用されている。

1. 記録およびアーカイブズは、コンテキスト・ストラクチャ・コンテンツによって構成
2. コンテキスト・ストラクチャ・コンテンツに関するデータは、メタデータによって記録
3. データおよびメタデータは、SGML ないしその相当のものに実装することを推奨

この方法論により、記録化(Recordness)する意味と記録化されている資源を再現(Representation)する意味が、コンピュータ地平に立脚したのである。つまり、データが紙媒体であろうが、電子媒体であろうが、データのコンテキスト・ストラクチャ・コンテンツに関するメタデータを記録し、再現することが求められているのである。これを、資源の受給者からみると、資源のメタデータによってガイドされた先にコンテンツたるデータがうかがえるという構図があり、そのコンテンツのデータのひとつの種類として「デジタル・アーカイブ」が存在する。

この方法論の重要なもうひとつの側面は、これらが世界標準、ないし世界的なガイドラインとして作成されたものであるということである。標準化という作業は、資源形成の統一化と資源分配方法の平準化につとめることがその背景にあるが、それは資源を概観する組織の存在の有無が大きな影響を与えるであろう。たとえば、イギリスのアーカイブズに関しては the Historical Manuscripts Commission (UK National Register of Archives (NRA))があげられる。これに相当する機関のない日本においては、いち早く関連機関や団体による組織を立ち上げる必要がある。そのもとに、世界標準等に準拠した日本のアーカイブズに適合した国内標準作成が求められる。

ついで、この方法論が拓きつつあるあらたな地平についてみておこう。

アーカイブズが対象とする資源は、19 世紀末にアーカイブズ学がはじめて構築されたとき以来、紙媒体記録だけでなく印刷物なども含まれていたが、現在ではオーラル・ヒストリーも対象とされている。つまり、「無形」なものの記録化(Documentation)であり、それは、データとともに、誰が、いつ、どこで、どのような意図で、何を、どのような方法で、などなどのコンテキスト・ストラクチャ・コンテンツに関するメタデータを、記録化することである。この方法は、オーラル・ヒストリーのみならず音楽・舞踊などの伝統的な資源のほかに、各種メディアの資源の保存と利用にも十分に対応するものである。1970 年代後半から開始されたケニア国立文書館の「口承慣行」保存事業-オーラル・ヒストリー・口承文芸・伝説・音楽・舞踊-は 1980 年代に挫折したが、現時点ではこの方法論によって「口承慣行」保存事業は展開される基盤が

構築されているといえよう。

また、昨年以來、イギリスでは、政府の後押しにより、アーカイブズ・ライブラリー・ミュージアムなどの資源を統合して把握し、再現する方法の構築に着手し始めた、と言われているが、すでに、各分野のメタデータの共有化を意図するものとしては、ダブリンコア活動が1990年代後半から存在する。この動きを加速するものとなるであろう。

このように、メタデータは、いままでのアーカイブズ・ライブラリー・ミュージアムなどの資源をひとつの統合された資源世界へ導くものとなるであろう。

資源が24時間、供給者から受給者へ流される状態ができると、受給者から資源に対するあらたな要求、資源に対するデータの追加という要求がなされるであろう。たとえば、関連資料データの追加などである。つまり、供給者と受給者双方による資源の高次化である。このスタンスを積極的に導入しようとする場合、これを保障するものとして、コンピュータシステム外においては様々な取り決めが必要となるが、コンピュータシステム内に関する点で必要なものとしてあげられるのは、メタデータである。資源の高次化に関するメタデータの構築問題である。

このように、現時点で、コンピュータ社会におけるアーカイブズにとってキーとなっているものは、メタデータである。メタデータは、様々な資源の統合・高次化に寄与するものである。

そのメタデータを、ISO 15489-1では次のように定義している。

Metadata: data describing context, content and structure of records and their management through time

この記録管理の国際標準の基礎を作成したオーストラリアのアーキビストたちは、次のように言っている。

Metadata means better data.